

教えて！情報モラル 【犯罪トラブル編】



岐阜県教育委員会 教育研修課

携帯電話をただ単に連絡の手段に使うだけでなく、ブログやプロフなどで、自分の思いや気持ちを情報発信するために利用するようになってきています。児童生徒は自分と同世代の人を意識して作成していますが、見ている人の中には最初からそれらを悪用しようとする人もいます。

【なぜプロフ（自己紹介サイト）を作成したぐらいで、トラブルに巻き込まれてしまうの？】

携帯電話やPCを使えば、簡単に無料でプロフやブログなどを作成できる。児童生徒が何気なくそれらのサービスを利用しただけなのに、深刻なトラブルに巻き込まれた一事例を紹介する。

「ある犯罪事例」

1 プロフを作成



プロフ作ったからみんな見てね。新しい友だちできないかな？

2 対象児童生徒を選択



かわいい子はいないかな？この子はだましやすそうだ。

3 情報収集

・実名などの個人情報が書かれていなくても、複数の情報を組み合わせると住んでいる地域や学校などが類推できる。犬に興味はなくても、ネットで調べて話を合わせるができる。

4 ミニメールで接近

ネットで新しい友だちができた。犬の話いっぱいできてうれしいな！

「私も犬が大好きなの。私たち気が合うわね。お友達になってね。」

5 交流・メルアド交換



何でも相談にのってくれるし・・・犬好きに悪い人なしっていうのは本当だな。「私のメルアドは、abc@・・・」



「あなたともっとお友達になりたいわ！メルアド教えあっこしようよ！」

6 裸の写真送付



えっ何で私の胸の写真送らないといけないのかなあ。恥ずかしいけれど、下着を着けた写真送っておこう。

「実は私、胸のことで悩んでいるの・・・。私の胸の写真送るから見て！あなたの写真も送って・・・」

・胸の写真をネットで適当に入手し、自分の写真として送付する。

7 裸の写真要求

「私が裸の写真送ったのに、何であなたは下着付きなの！やっぱり私の胸のこと、ばかにしてるんだ・・・」

8 恐喝・脅迫



「裸の写真は、ちょっと送れないわ。ごめんね・・・。」



「お前、いい加減にしろよ。お前の学校も家もわかっているんだ。すぐに送らないと、学校の友だちに下着の胸の写真ばらまくぞ。早く送れ！」

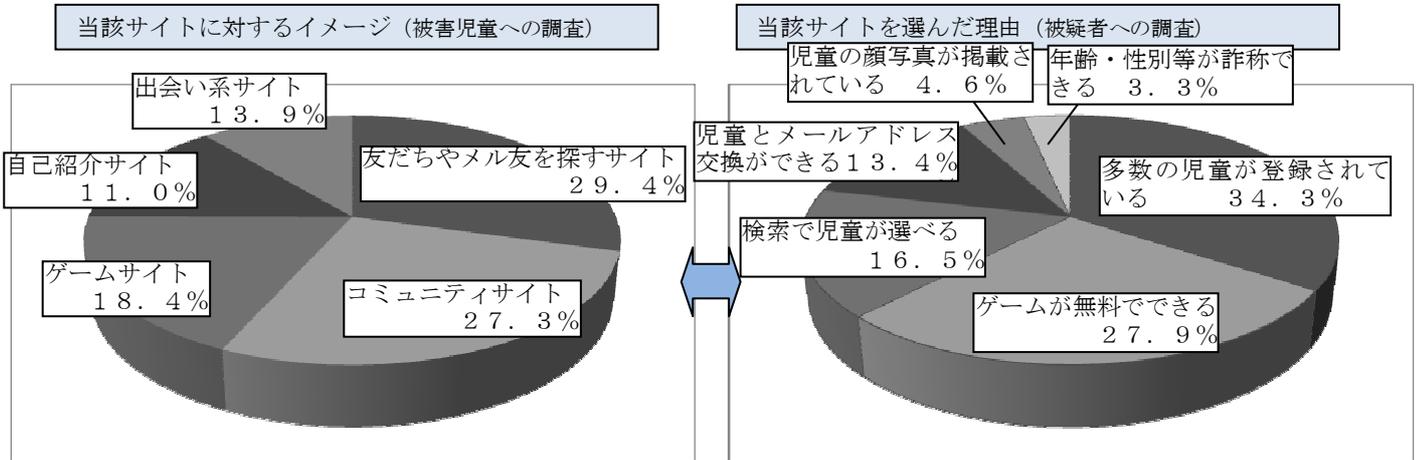


プロフやブログやゲームには、ミニメールとよばれる本人にコメントを送付できる機能がついているものが多い。ミニメールを使って、年齢や性別を詐称して本人にアプローチし、共通の話題等から信頼を得る。その後、通っている学校やメールアドレスなどの個人情報を巧みに聞き出され、最終的には、わいせつ写真を要求されたり、実際に会って、性犯罪・暴力等のトラブルにまきこまれたりすることになる。

【児童生徒は知らない自分の情報の悪用のされ方】

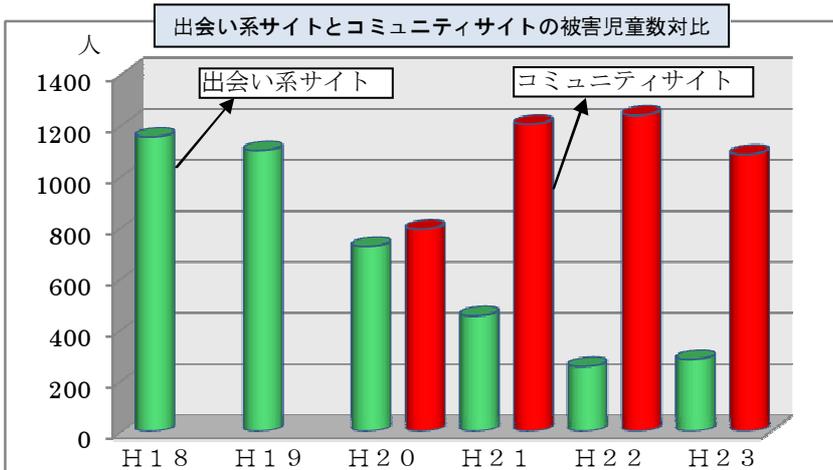
次のグラフは警察庁によるコミュニティサイトに起因する児童被害の福祉事犯（被害児童 546 人、被疑者 557 人対象）の調査結果である。ここでいう児童とは、18 歳未満の者をいう。

事犯に関わった同じサイトを、被害児童は「友だちを見つけるため」「共通の趣味の仲間と交流するため」「ゲームで遊ぶため」に利用し、一方被疑者は「犯罪を目的とした対象児童を選ぶため」に利用している。



警察庁 コミュニティサイトに起因する児童被害の事犯に係る調査分析より（平成 23 年度上半期）

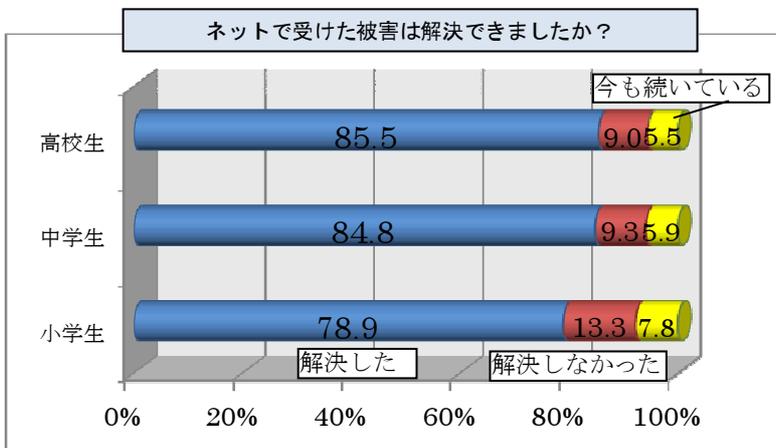
【出会い系サイトとコミュニティサイト】



警察庁 サイバー犯罪対策 調査 2011 年調べ

出会い系サイトに起因する犯罪被害に遭った児童数は減少しているが、コミュニティサイトに起因する犯罪被害に遭った児童数は、出会いサイトの約 4 倍となっている。

犯罪被害のきっかけとなる場が出会い系サイトからコミュニティサイトへと移行してきたといえる。



岐阜県教育委員会 情報モラルに関する調査 2011 年調べ



ネットにおけるトラブルは、場合によっては、ネットの特性により「広範囲」「長期間」「執拗さ」を伴い深刻化する。児童生徒がネット上で何気なく行った行為・言動がきっかけとなって、心身ともに深く傷つき、時には一生を左右するようなトラブルにまきこまれることもある。

左の岐阜県の調査においても「被害は解決せず今も続いている」と答える児童生徒は少なくない。

これらのトラブルの多くは、児童生徒が情報モラルを身につけてさえいれば起こらなかった可能性が高い。危険を回避し、安全に情報機器を活用できる情報モラル教育の必要性が高まっている。